

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>施設全体で地域密着型サービスの意義を確認している。その人らしい生活を支援できるように、入居者様の声を理念を掲げている。その為の私たちの支援姿勢を組み入れている。</p>	○	<p>地域密着型サービスを組み入れた理念の見直しをしたい。</p>
<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>法人理念と各ユニット理念をユニットの入り口に掲示している。また、毎日の申し送り時、定例カンファレンス、ケアプランの見直し時には、理念を意識したプランニングの作成している。</p>		
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。</p>	<p>入居者のホームでの予定を二ヶ月に一回のお便り、毎月の月間予定表を発行している。また、地域(町内会)の方たちに、施設で行われる行事にお誘いしたり、商店、美容室を利用し、外出の機会を作っている。</p>	○	<p>町内会の会合、近隣の小中高大学などの催し物に参加して行きたい。</p>
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>近くのスーパーマーケットの買い物、理美容室を利用している。また、日常的に住宅街を散歩し、なじみの関係になり、お花や作物など頂く事がある。</p>		
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>地域のイベントに参加している。特に商店街の行事に参加している。地域のPTAの方たちの交流もある。(ハンドベルなど)</p>		
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>地域の研修キャラバンメイトとして、認知症の啓発に努め、実習生の受け入れを積極的に行っている。</p>	○	<p>地域の中でも、小中高大学でキャラバンメイト養成講座など行いキャラバンメイトを増やしたい。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			<p>アドバイザーグループホーム(自己評価表ヴェネチア館)</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価をスタッフ全員で行い、意義や目的を理解し、外部評価の結果は、改善できる事を積極的に取り組み、実践につなげている。	○	評価の結果、ハード面に関しては、改善できない事もあるが、可能な限り工夫していきたい。
8 ○運営推進介護を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議の時は、自己評価と外部評価の結果を公表し、意見を頂いてサービス向上に活かしている。		
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	実践者研修、リーダー研修、管理者研修、地区管理者連絡会議、札幌市グループホーム連絡会議等に出席し取り組んでいる。		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	内部、外部研修等で理解を深めるよう努めているが、対象者がでた場合には、関係機関と協力し、支援体制を整えていく。		
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	研修を受け、理解を深めるよう取り組んでいる。特に、注意を払っているのは、言葉による虐待、態度による虐待には厳しく注意を払っている。		
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約、解約時には、三者(家族、入居者、管理者)で契約書を、口頭で説明させて頂き、理解、納得頂いた上で、同意を得ている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>13 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>日々の生活の中で、利用者の言動、表情から思いを感じ取れるよう努力し、毎日の申し送りで、小さな変化にも気付きをもち、情報交換し話し合っている。</p>	○	特に、行きたい所、食べたい物等は伺いながら、要望を受け入れ叶えている
<p>○家族等への報告</p> <p>14 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。</p>	<p>毎月の予定表、お便りや訪問時に現況報告したり、金銭管理に関しては、お小遣いのお預かり依頼書に同意して頂き、毎月領収書・出納表を送付している。</p>		
<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>15 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>全ユニット家族交流会(年2回)は、アンケートも行い、ご意見、ご要望を頂き、反省会等で話し合い、次回につなげている。</p>		
<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>16 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>月一回の愛全会グループホーム協議会等で、意見・要望を伝える機会があり、各事業者(各ユニット)の意見・要望を反映できる機会を設けている。ユニットカンファレンスにおいても同様。</p>		
<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>17 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>急な病院受診、御家族の都合のつかない場合、外出などの行事の時は、入居者様の生活パターンに合わせた支援ができるよう勤務時間帯を、いつでも対応できるような体制をとっている。</p>	○	緊急時(夜間)は、3ユニットで対応できる様な連絡網を作っている。
<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>18 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>異動の時の引継ぎには、利用者・家族への信頼が途切れないように、お便りや、来訪時には、御家族への挨拶と新しいスタッフの紹介を行っている。</p>		
5. 人材の育成と支援			

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	内部外部研修は、全スタッフが受講できるよう配慮している。勤務調整を行い、法人内の研修は、必ず参加できるように、同じ研修を2度行っている。また、研修後は、カンファレンス等で報告している。		法人グループホーム16ユニット委員会を立上げ、年間研修カリキュラム作成
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	グループホーム、地区連絡会議に参加している法人内のグループホーム(16ユニット)のネットワークで、勉強会を行っている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	疲労、ストレスに気を配り、休憩場所を確保している。また、面談時には、時間をかけ、1人1人の話を聞くように努めている。要望に応じて、プライベートを充実させていただく為に、連休を取れるよう配慮している。	○	
22	○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	資格取得の為の学習、自主的な研修会の参加を優先的にしている。また、得意とする能力・技術を発揮できる場面を作っている。	○	例えば、エステ・パソコン・音楽・手芸・書道・華道・料理・着付等
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	サービス利用についての相談があった場合は、見学の時から直接ご本人に会って、お話を聞き困っている事、不安な事を確認し、受け止めるよう努力し、その時点から関係作りに努めている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	これまでの苦労や不安な事、困っていた事の経緯について傾聴し、各専門職と話し合い、どのような対応ができるか努力している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	併設事業所の他職種との連携をとり、状況を確認し、必要なサービスにつなげられる様な対応に努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	ご本人・家族に事業所を何度か見学していただき、徐々に馴染めるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	生活史の中からお本人を理解し、ご本人の生活の知恵などを教えていただき、生活の中に役割を持っていただく場面作りをして、力を発揮できるよう配慮している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族の思いを受け止め、家族としてどのような協力を得られる、話し合い、共にご本人を支援させていただく。	○	家族の行っている趣味など活動を、生活の中に取り入れ協力して頂きたい
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	月ごとの行事予定を送付し、催しものへのお誘いを行い、本人と家族の共有時間が、より持てるよう努めている。また、遠方の家族とは、本人に電話やFAXをりようしていただき、疎遠にならないように留意している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの友人の来訪は習慣となり、他入居者様と一緒に行事を楽しまれたり、関係、継続の支援に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	家事仕事等を通して、出来ない方への気配りや、支え合いをしています。コミュニケーションをとりにくい利用者様には、スタッフが間に入り、パイプ役となって、孤立する人が居ないように努めている。	○	気のあった同士の外出もどんどん進めて行きたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退去された方、家族がホームに立ち合ってくれるなど、関係の継続をしている。退去後の様子を伺ったり、今後の相談も受けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	生活シート、フェイスシートなどを活用し、その方の生活歴を知り、日々の関わりの中で、言動、行動、表情などから、希望や意向を引き出し、把握できるように努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族関係者から入居前の情報を頂き、日々の会話の中から生活史、環境を把握し、サービス計画書に組み入れ、暮らしの継続に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	生活リズム、心身の状態をアセスメントし、総合的に把握できるようスタッフ同士、申し送り表などを活用し、情報の共有をしている。その中には、本人の声、家族の声を聞き、取り入れている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	変化があったときは、都度モニタリングと評価をカンファレンスで討議し、本人・家族の要望を聞きながら、内容を検討し、介護計画書を作成している。	○	センター方式のC-1-2のシートを活用し、日常的に情報収集する。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>37 ○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>状態に変化が生じたときは、速やかにスタッフ・御家族との情報交換をし、介護計画書の内容の見直しをしている。</p>	○	<p>医師、看護師にも入っていただき、意見交換をしていきたい。</p>
<p>38 ○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>気付いた事などは申し送り表に記入し、口頭で申し送ったり、業務に入る前には必ず目を通してから、仕事に入る。申し送り表にも工夫をしている。介護計画書・ケアプランにそった記入の仕方をしている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
<p>39 ○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>現在、デイサービス、ショートステイのサービスは行っていない。</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
<p>40 ○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。</p>	<p>地域のボランティアや、民生委員、中学生の生涯学習のボランティアを受け入れ、協力していただいている。</p>		
<p>41 ○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。</p>	<p>必要時応じ併設事業所の専門職等への相談し協力いただいている。あるいは、オムツサービスを利用している。</p>		
<p>42 ○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p>	<p>運営推進会議に出席していただき、支援に関する意見・情報を頂けるようになった。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>43</p> <p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>週1の訪問看護、2週間に1回の訪問診察で日常の健康管理を行っている。必要時は、家族にも協力していただき、受診などを行っている。</p>		
<p>44</p> <p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>現在主治医は内科医だが、必要に応じて、診察・治療を受けられる体制を整えている。</p>		
<p>45</p> <p>○看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>訪問看護、週に1回の診察を行っている(24時間体制で助言・必要時の対応を行っている)</p>		
<p>46</p> <p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>面会に多く行き、本人の様子を伺ったり、家族からの情報をいただき、医師と家族と面談の場を設けている。</p>		
<p>47</p> <p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>現在該当者はいないが、重要事項説明書に記載している方針を共有し、本人・家族の意向をもとに、事業所が出来る最大の支援と、家族が協力できる支援をよく話し合い、医師の指示のもと、対応していく。</p>		
<p>48</p> <p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>利用者の立場に立って、スタッフが出来る最大のケアを話し合い、必要時は医師や訪問看護などとも、協力していただき、行っている。(看取りケアについては、バックアップ医療機関がある為、行っていない)</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49	○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	他事業所に移られた場合は、アセスメント、ケアプラン、介護情報書などで情報交換し、生活の継続が出来るよう心がけている。(契約書により、情報提供については、同意を得ている)		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	申し送り時には、場所、声のトーン、実名など言わないよう配慮している。1人1人の対応については、場所を移して対応している。記録等については、特定の場所に保管している。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	個々の能力に合わせて選択できるように配慮している。表現がうまく出来ない人には、サインや行動や、表情をみのがさないように、スキンシップやジェスチャーで対応している。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	体調を考慮し、自室でやすんだり、リビングソファで横になったり、その方の言動、行動にあわせて対応している。一人ひとりの生活パターンを把握することで、希望に添えるよう努めている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	月2回のフェイシャルマッサージ(化粧、マッサージ)を行ったり希望により美容室に行ける様に支援している。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者様の得意な事(材料刻み、海苔巻き、配膳、盛り付け、後片付け)などを手伝って頂いたり、味付けを教えて頂いたり力を発揮できる場を設けるように工夫をしている。 また、外食の機会や施設内レストランの活用も 行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	希望により週一回のお酒を飲んだり3時のおやつと一緒に手作りしたりしています 特にお誕生会には好きな食べ物を聞いてお祝いさせていただいている		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄パターンを把握しトイレで排泄出来るように対応している		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	希望により夕食後ゆっくりと入浴したり 午後からの入浴は会話をしながらゆっくりと入浴できるよう対応している		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	夜間日中の状況に応じて居室で休んで頂く 日中は趣味活動、お手伝いなどで身体を動かす事により 夜間安心して眠れるよう支援している		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	個々の得意分野を把握し食事作りのお手伝いをして頂いたりレクリエーションでは利用者同士でオセロをしたり数人で楽しめるゲームなどを行っている	○	華道茶道書道などを教える立場になり張り合いを持てるよう支援したい
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	自己管理できる方は本人家族に話しお小遣いとして 所持し売店などで買い物の支払いをしている、また 金銭管理が出来ない方に関しては預かりを依頼され出納をつけ領収書の送付をおこなっている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	日常的に近隣のスーパー、美容室、外食、希望に応じて行っている散歩は施設の庭など近所に出掛けている。	○	車椅子、歩行器の方の外出の支援をもっと充実させたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	お花見、紅葉狩り、イルミネーション、コンサートなど行事を計画し出掛ける機会を作っている。家族も参加して頂いている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	入居者が自らFAXを書き家族とやり取りされたり、電話を取り付けている方、ホームの電話も自由に使えるように支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	気軽に訪問されたり、一緒に食事をされたり、施設の喫茶を利用されたりと気軽に出来るように支援している。また、遠方の方には、お泊りいただいている。友人の来訪は定期的にされている方もいる。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束マニュアルは周知徹底している。内部、外部研修にも積極的に参加している。特に言葉による拘束はスタッフ声を掛け合い意識してケアしている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	エレベーターはキーロックになっているが、1・2階へ行かれるときや、外出、散歩時はスタッフが付き添っている。また、3ユニット間の行き来を自由とすることで、入居者様には閉塞感を感じないよう配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員同士協力しながら、さりげなく行動を把握し、安全の確認をしている。とくに、居室での安全には、小まめに、訪室して見守りをしている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	調理時の包丁使用する時は一緒に見守りしながら、使用して頂き、針、ハサミについても見守りしながら使用して頂いている。使用後は確認してから、速やかに片付けている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	カンファレンスを行い、事故報告書を作成し提出している。また、ヒヤリハットを活用して事故防止に努めている。	○	安全対策委員会があり、月1回施設全体で報告して、対策を討議している。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	施設全体で救急対応の定期的研修会を行っており参加している。また、3ユニットで対応できるように緊急連絡網がある。	○	今後、訓練のなかに、事例を取り入れた内部研修を行いたい。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回の避難訓練をしている。防火マニュアルに添って、日中、夜間を想定した訓練で避難場所、方法を理解している。	○	町内会の防火訓練に、参加し協力を得て行きたい。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	急変、転倒等の予測される事態については、事前に家族と話し合い、現在の状態を理解して頂いている。また必要時には、主治医にも相談して話合っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎朝、バイタルチェックを行い体調の変化や異変の発見に速やかに気づき、すぐに医師看護婦に連絡して、指示を頂いている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	スタッフが薬の管理をしている。確認表を利用して内服の確認をしている。処方箋はカルテに保管し変化があった時は、毎日の申し送りをしている。速やかに医師にも報告をしている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	毎朝牛乳を飲んで頂いたり、水分は確認表を利用して、水分の把握をしている。また野菜を多く取れるように、工夫をしたり、体操などで身体を動かして頂いている。医師と相談して下剤の処方もお願いしている。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後の口腔ケアと就寝時のポリデント消毒をしている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	個々の食べれ量の盛り付けを考えたり栄養不足になりがちな方は補助食品を利用して栄養バランスに配慮している。	○	管理栄養士のメニューに添って食事提供しているが栄養指導を受けたい
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザ予防接種は、スタッフ、入居者全員受けている。外出、排泄後、食事前の手洗いの徹底と内部研修での再確認を繰り返しマニュアルに基づき塩素消毒をしている。調理器具、共用部、の掃除は日に何度か行っている。	○	感染委員会と連携をとり、研修、マニュアルの徹底を確認している。
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	マニュアルに添ってキッチン、調理器具の衛生管理を行っている。食洗機を使用しているので高温消毒を行っている。食材は新鮮なうちに使い切っている。	○	食材納入については業者直接納入を試みている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p> <p>施設的に正面玄関には受付があり季節感を出して工夫している。また、5階エレベータ前、廊下には案内板があり、季節ごとの飾りつけも工夫している。</p>		
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p> <p>ゆったりしたリビングには大きめのソファでくつろげ、生活音にも気を配り食事中は、軽音楽を流している。また、テーブルには季節の花などで飾り付けをして工夫している。</p>		
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p> <p>共有部分の廊下には椅子、テーブルを置き3ユニットの入居者様の交流の場になっている。リビングにも、所々に椅子をおき、工夫をそている。</p>		
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p> <p>本人、家族と相談して使い慣れた物を持ってきて頂きお部屋には自分で作った作品などを飾っている。</p>		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のとどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p> <p>気温に応じて、室温調整をしたり掃除中は必ず換気を行い、温度、湿度計を設置し調整をおこなっている。夜間は、濡れタオルを利用し湿度の確保をしている。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p> <p>廊下、リビング内には手すりがあり見守りで歩行が出来るようになっている。浴槽、にも工夫がされ、身体機能が活かされる様にしている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	出来る事を継続する為に(何に混乱するか?)などをアセスメントし、状態の変化を見逃さず都度カンファレンスを開きその方らしい暮らしが出来るように話し合っている。		
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	夏場は中庭、花壇を見て楽しみベランダではお茶を飲んだりプランターに花を植えたりと楽しんでいる。また、花火大会の時は、全GHが見学に来て交流の場として定着している。		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんど掴んでいない ① ご自身で表現できない方には、ご家族様からの情報等により意向を伺っている。また、日常生活の中では、その方の表情や行動から意向を感じ取れるよう努めている。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① ① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない ① 食事時間も含め、ゆったりと会話などをして過ごしている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない ① 生活の中で、お一人お一人のペースを把握し、その方に合わせた生活ができるよう支援している。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている	② ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない ② 生活の中でそれぞれの入居者様の得意な事を把握し、見守り、お声掛け等により、自信を持って家事やレクリエーションに参加いただいている。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	② ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない ② 近隣への外出は随時行っているが、ご希望の場所によっては事前に計画を立て支援している。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	① ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない ① 月2回の訪問診療及び週1回の訪問看護があり、緊急時も医師に相談できる体制を整えている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	② ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない ② 心の小さな変化に配慮し、不安な様子を感じた場合は会話の中でその原因を把握したうえで、可能な限りご要望等に応じ安心していただけるよう努めている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	② ① ほぼ全ての家族 ② 家族の2/3くらい ③ 家族の1/3くらい ④ ほとんどできていない ② ご要望やお困りのことなど、遠慮なく申し出いただけるような雰囲気作りに努め、どのようなことに関しても伺う姿勢を整えている。また、消極的なご家族様へは、こちらからお声掛けをさせていただいている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	① ① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない ① ご家族様、ご友人、定期的なボランティアの方等が、毎日のように来訪されている。
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	② ① 大いに増えている ② 少しずつ増えている ③ あまり増えていない ④ 全くない ② 開催時には、民生委員、町内会長に参加いただき、情報の公表等によりグループホームでの取り組みについて知っていただけるよう努力している。また、地域の方からの意見等もうかがう事ができている。

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
98 職員は、生き生きと働いている	<p>① ほぼ全ての職員が ② 職員の2/3くらいが ③ 職員の1/3くらいが ④ ほとんどいない</p> <p>① 職員同士の連携がとれており、個々の得意分野を活かしながら勤務できるような環境作りに努めている。</p>
99 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<p>① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない</p> <p>① ご入居者様のご要望等には可能な限りお応えできるよう支援させていただいている。また、ご入居者様やご家族様より「ここにいたら安心」とのお言葉も伺うことができた。</p>
100 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<p>① ほぼ全ての家族等が ② 家族等の2/3くらいが ③ 家族等の1/3くらいが ④ ほとんどいない</p> <p>① 家族会やアンケートの結果からも、おおむねご満足いただいている。</p>

<p>【特に力を入れている点・アピールしたい点】</p> <p>(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)</p>	<p>デイサービス及びナーシングホームとの複合施設であるため、活動や行事等を通じ、デイサービスをご利用されている地域の方と交流することができる。</p> <p>また、入居者様の心の声に耳を傾け、いつまでも美しく健やかに明るく笑ってお過ごしいただけるよう、お手伝いさせていただいております。</p>
--	--